

## 落合同窓会長 ご挨拶

本当に長い歴史を刻まれたことに敬意を表するとともに、お祝いを申し上げます。おめでとうございます。

私は昭和49年管理工学科卒業でありまして、設立した年とともに社会へ出た年代でございます。また、余談でございますが、青山学部長は同期でありまして、矢上台だけで育った1期生ということになります。昭和50年ごろは、まさに先輩方が日本社会を作ってこられたという自負にあふれ、強い息吹を感じていました。

今日は、昭和30年卒の奥寺大先輩がいらっしゃっています。先ほど、今でも同期会をやっているよというお話を伺いました。パワーというか、結束力、絆の深さ、そういうようなものは慶應の伝統だと簡単に言われることが多いですが、小金井キャンパスで育てられた皆さまのパワーが理工学部の伝統や同窓会組織の形も作ってこられたのかなと先輩方に改めて感謝を申し上げます。横のつながりはいまでも若い世代も活発にクラス会などするようですが、いかに慶應といえども、縦のつながりを継続していくことは結構至難の業でございます。前後の先輩後輩が和気あいあいと親しくする機会はなかなかありません。あるいは、75周年記念事業での募金活動は皆様の記憶に残っていらっしゃると思いますが、そういう募金の絆も縦のつながりがあってできることだと思います。縦横無尽の人間関係、信頼関係があってこそできるのだとそう思うわけでございます。

40年という年月の中で縦の絆を築かれ、大先輩の息吹を今に引き継いでこられているということで、勝野支部長をはじめ、歴代の支部長の方々、そして皆さま方の絆、あるいは、塾を思う結束力に改めて思いを致していることでございます。

ちょっと話を変えますが、75周年記念事業の募金が一昨年終了しました。10億円という大きな金額を目標と掲げて、2014年の5月ぐらいにはまだ8億円ちょっとで、もう無理じゃないかと思っておりましたが、皆さまのパワーで目標に到達しました。同窓生の皆さま方には、本当に貴重な浄財をご寄付いただきました。また卒業生が活躍する企業からも多大なご支援をいただいて、募金活動自体は無事に終了しました。募金活動の御礼ということで、若手の先生方が学部長に、同窓生の方がこれだけご寄付くださったのだから、学校としても何かお礼の意思表示をしようじゃないかとそんな風に言われました。今年からですが、「ホームカミング」という学校が主催し、第一回目を今年の6月の第3日曜日に行いました。来年も多分同じ6月の第3日曜日になると思いますが、矢上キャンパスを一日開放して、またその中の最先端の技術をご覧いただけます。面白かったのは、ナノレベルの微細な加工が可能な工作機械で、伺うと3億円ぐらいしたよということでした。また、3Dプリンタの最先端など、そのような機械のデモを拝見できました。学校が同窓生にお礼の気持ちを伝える場ができましたので、名古屋、愛知県、浜松からは遠いかもしれませんが、もしお時間が許されたら、ぜひご参加いただければと思います。また、集まった募金の浄財は、現役の奨学金に使わせていただいております。

連合三田会の会合に出ますと、この1年間、理工学部は活発に活動していますねとよく言われます。理由は募金活動が大成功であったということ、またもう一つ、今年、三田評論と三田ジャーナルに支部総会の記事が載りました。確か、箕浦さんに書いていただきました。それを読んだ方から、理工学部同窓会の支部は活発に頑張っているな、文系学部出身の我々ももうちょっと頑張らないかなとそんなことを会合で言われ、嬉しい思いをしました。

東海支部の今後も良き伝統、息吹を、新しい時代、新しい若い方々に継がれていき、さらに発展されますように、ご祈念申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。本日はお招きいただきまして、ありがとうございました。

